

自立支援部だより

～みんなで考えよう 特別支援教育の専門性～

令和4年10月28日 第2号
むこがわ特別支援学校

『授業を通しての支援』『個への支援』を考える

先日は兵庫教育大学の嶋崎まゆみ先生の来校日でした。小学部低学年の「図工」の4グループの授業を見ていただきました。小低クラスの先生方が、嶋崎先生にアドバイスをいただきました。

話し合いに出た話題

『授業を通しての支援』

図工「紙粘土でブドウ作り！」（5つのクラスの子どもが、4つのグループで学習）

(1) グループしているのであれば、同じ指導案でも実態に合わせてグループごとに学習内容や手だてを工夫すべき。

例えば、【絵の具で白色の粘土に色を付ける時】

①絵の具と粘土を混ぜるところから取り組むグループ

②元から粘土に色がついていて、捏ねる丸めることに取り組むグループ

←実態に合わせて何を課題にさせたいのかを明確にする

*粘土は袋から出してそのままではなく、ちぎっておく、ほぐしておく方が混ざりやすい。

(2) 電子黒板の活用の仕方

- ・今やっている活動のページをテレビに映し出していると何をすべきかわかりやすい。
- ・全体の見通しが持てるように、前の黒板には一時間の予定を提示（文字や絵による視覚支援）もしておく。

(3) 子どもへの話しかけ方

- ・早口にならない。
- ・子どもには、ゆっくりでないと伝わらないという意識を持つ。（どうしても早くなりがち）
- ・単語で区切って、はっきり、わかりやすく話す。
- ・視覚支援を入れながら話すと理解させやすい。

『個への支援』

(1) 自分の机のところに行って着席できず、なかなか取り組めない子どもに対して

- ・その子どものところに机を持って行って学習に取り組んでもいい。
- ・授業に関係ない物を触ってしまうのであれば、布をかけ（ふたをし）、触れないように物の場所の移動（教室の構造化）をする。

(2) 注意引き行動＝社会性の現れ、人と関わることで人の反応を見ている。

（例えば、困らせて喜ぶなど）長年の関わりの中で、間違った注意引きを覚えてきたとも考えられる。そのことに反応するのではなく、他のことに気持ちがいくようにする。 ➡裏につづく

日頃から先生が子どもと楽しむこと。楽しい関わりを増やす。先生がおもしろがる余裕も必要。

- ・抱っこしてくすぐる。
- ・子どもがすることの真似する。
- ・体を使った遊びを楽しめるようにすることも大切。

毛布ブランコ
感覚をとる遊び 等

(3) タイムタイマーの活用の仕方

- ・切り替わる(切り替える)きっかけにする。
- ・子どもの手の届くところに置かない。(勝手に触らせない。触れば、その時点で終了などルールは、はっきりしておく)
- ・必ず全員が見ているか確認した上でスタートする。

(4) 音に敏感である子ども

- ・イヤーマフが必要かどうかは、付けるにあたってどれくらい理由があるか、困り感の量にもよる。

(5) 電気のスイッチにこだわる子ども

- ・スイッチのところに視覚支援(×)をつける。
- ・他の遊びに誘導する。

★お知らせ★

「教材の活用をしています」

クラスや学年で作った教材だけでなく、学校内に貸し出しの教材があります。朝の学習や自立活動、中学部の国語数学、小学部のことばかずの時間など、様々な学習場面で活用します。

形あわせ・色板・ウッドシェイカー・ミニボーリング・三目並べ
ペグ差し・かるた・百人一首・紙風船・カラークリップ・VOCA-PEN
パズル・ビーズ・クラフトパンチ・まっちろうそくゲーム・黒ひげ危機一髪
ブロックス・音の出るボール鈴・サンタとカプセル・スーパーボールすくうんです
アイロンビーズセット・イチゴケーキゲーム・積み木・ビッグバルーン・マッチングゲーム
タイムタイマー(ポケットサイズ)・形パズル・雑音筒・鈴・触覚板・色付き円柱 など

